一般社団法人 日本建設機械施工協会 東北支部　支部たより

とうほく

Winter 2021
Vol.180

令和2年度　除雪講習会開催

新技術活用の促進について

ICT活用工事の本格導入へ向けて

令和2年度　防災訓練を実施

目　次

巻頭言　巻頭言　コロナ禍での暮らしで思うこと　副支部長　石黒　忠史　1

令和2年度　除雪講習会開催　施工部会　2

国土交通省コーナー(1)
新技術活用の促進について　ー 新技術活用の義務化 ー
東北地方整備局　企画部　施工企画課　6

令和2年度　第2回運営委員会開催　9

情報化施工技術委員会　活動報告
ＩＣＴ活用工事の本格導入へ向けて
東北支部　情報化施工技術委員会　委員長　鈴木　勇治　9

令和2年度　建設機械施工技術検定試験　一級学科試験実施　11

令和2年度　防災訓練を実施　技術部会　12

安全コーナー　「安全の見える化」について
建設部会　田中　秀幸　14

国土交通省コーナー(2)
令和２年度　東北地方整備局 局長及び事務所長 優良工事表彰　16

支部行事・会員消息　17

令和2年度の除雪機械展示・実演会の中止について

「ゆきみらい2021in白山」（石川県白山市）が新型コロナウイルス感染症の影響が見通せないこと等から、約1年延期になったため、この一環として計画しておりました「令和2年度除雪機械展示・実演会」の開催を中止することになりました。令和3年度の開催の際は、多数のご参加をお待ちしております。

【表紙写真】　三陸復興道路 気仙沼湾横断橋遠景…手前のアーチ橋は気仙沼大島大橋／撮影地：宮城県気仙沼市
撮影者：木村信悦（範多機械㈱）

巻頭言

コロナ禍での暮らしで思うこと

副支部長　石黒　忠史
(株)ＩＨＩインフラ建設　東北支店長）

新年明けましておめでとうございます。

本年は、令和の年号となりすでに３年目を迎えております。そんな中、毎日のようにメディア・インターネットを通じ、新型コロナウイルス感染症に関する情報が溢れています。全世界で週、月ごとに状況が変化し、感染拡大防止対策が強化され、みな様の働き方や生活様式など大きく変化していると思います。私も首都圏より転勤を命ぜられ、４月より心機一転、東北での勤務、生活を楽しみにしていたところ、東京からの転出という事から、まず２週間（そのころは潜伏期間は、14日間といわれていました）の自宅待機を命ぜられ、さて出社、会社の方からも防疫体制の徹底により、待機の延長と在宅勤務の方針が出され、途方に暮れていた時を思い出します。

そんな中、新型コロナウイルス感染症への「不安」の中、前総理が記者会見を開き、「ジョギングやウオーキングなど人との間隔を空ければ、問題ありません」というフレーズをききました。

そんな時新しい住居のすぐ近くに、仙台の桜の名所、榴ヶ岡公園があることを思い出し、早々に、その公園に行って見ると、広大な敷地の中で人は疎らで、これなら問題無いと思い（もちろんマスク着用）美しい榴や桜を見ながらお昼どきや夕方に、毎日３～５kmほどのウオーキングをすることにしました。また、どうせなら、大好きなアルコールもやめてみようと思い、継続してみると、１カ月で４kgの体重減となりました。（リバウンドはありますが…）そして何より、都心にいる時や忙しい中、花や草木・自然を見てリラックスする心をすっかり忘れていた事も思い出しました。

私も含め「今までのようにいかない」という現実を直視し、困っている方々も多いと思います。しかし、ともすれば今まで何事もなかったことのほうが異常だったのかもしれません。新型コロナウイルスの問題がなかったころは、毎日安心感で満たされていたか？きっと、そうとも限らなかったのでは？「○○の打ち合わせまでに資料を作成しないと！明日には客先にお詫びに行かないと！」など社会生活の中で日々ストレスを感じていた事はないでしょうか。残念ながらいくら考えても未来の事は誰にもわかりません。いくら考えても答えは「今」しかわかりません。しかしながらその答えを探し考え続けると脳は休まず疲弊してしまいます。

そんな時は、今、この瞬間に意図的に集中してみる「マインドフルネス」的な考えをもってみると、木々の緑の美しさ、風のやさしさ、毎日飲むコーヒーの香り、お風呂の温かさなどが実感でき、少しでもリラックスできるそうです。

特に東北の方々は、大震災後、みんなで力を合わせ、一歩一歩困難をのりこえていった経験があります。コロナなんかに負けず、きっと穏やかな生活を取り戻すことが出来ると思います。

何かと不便の多い今日ですが、この状況が１日も早く解消され、平穏な日々が戻りますよう、祈念致します。

令和２年度　除雪講習会開催

施工部会

はじめに

東北支部では例年除雪講習会を開催しておりますが、令和２年度も講習会を開催しました。

本除雪講習会は、国土交通省東北地方整備局をはじめ、諸官庁のご指導により道路除雪を主体とした除雪作業の安全確保・円滑な除雪作業を遂行するための準備講習会として、道路除雪を担当される建設業および官公庁、除雪機械整備業等の関係者を対象に実施しております。

今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、受講者の間隔（ソーシャルディスタンス）を大きくとる必要から、１会場当たりの受講者数を３分の１におさえるとともに、開催回数を増やす対応をとりました。過去最高の受講者数を記録した昨年度の開催回数15回を大幅に増やし、22回の開催となりました。

この除雪講習会は、建設系ＣＰＤ協議会のＣＰＤプログラムに承認されており、必要な方には当日会場で受講証明書を発行しました。

また、本年度の受講者数は、2,752名で、前年度より約580名ほど少なくなりました。

１．講習会の目的

道路除雪作業従事者を対象に、除雪工法・除雪作業の安全対策・除雪機械の取り扱いの要点を習得していただき、除雪の効率化と除雪作業の安全、冬期道路交通の円滑な確保の遂行に資するものである。

２．受講対象者

国、県、市町村、公社等が管理する道路の除雪作業に従事する管理者等、除雪作業請負業者のオペレータ・現場代理人・施工管理者等、除雪機械整備工場の整備員等。

３．講習内容および講師

除雪講習会では「令和２年度　道路除雪の手引き」による説明の補助資料として、プロジェクターを使用し、動画も交えた説明を行いました。講習会プログラム等は下記のとおりです。

令和２年度　除雪講習会　プログラム

講　習　内　容	時　間	講　　師
あいさつ	10：00～10：05	東北支部事務局
国の除雪の取組について	10：05～10：25	国土交通省の講師
県の除雪の取組について	10：25～10：45	各県の講師
施工方法と作業のポイント	10：45～12：00	東北支部講師
（昼食休憩）	12：00～13：00	
除雪作業の安全対策および 事故とヒヤリハットの事例	13：00～13：50	東北支部講師
（休憩）	13：50～14：00	
冬の交通安全	14：00～14：40	警察の講師
除雪機械の取り扱い	14：40～15：55	東北支部講師
（共通編および各機械編）		
閉会および受講証交付	15：55～16：10	東北支部事務局

4．開催場所・開催日および受講者数

除雪講習会開催日時、場所、受講者数は下記のとおりです。

令和２年度　除雪講習会実施状況

日　　時	会場名	講習会場	受講者数
令和 2 年 9 月 23 日㈬	弘前会場	弘前文化センター	62 名
令和 2 年 9 月 24 日㈭	青森会場(1)	ホテルクラウンパレス青森	84 名
令和 2 年 9 月 25 日㈮	青森会場(2)	ホテルクラウンパレス青森	79 名
令和 2 年 9 月 29 日㈫	山形会場(1)	山形ビッグウイング	96 名
令和 2 年 9 月 30 日㈬	山形会場(2)	山形ビッグウイング	95 名
令和 2 年 10 月 1 日㈭	新庄会場(1)	新庄市民プラザ	59 名
令和 2 年 10 月 2 日㈮	新庄会場(2)	新庄市民プラザ	58 名
令和 2 年 10 月 5 日㈪	横手会場(1)	秋田ふるさと村	160 名
令和 2 年 10 月 6 日㈫	横手会場(2)	秋田ふるさと村	161 名
令和 2 年 10 月 7 日㈬	秋田会場(1)	秋田テルサ	71 名
令和 2 年 10 月 8 日㈭	秋田会場(2)	秋田テルサ	73 名
令和 2 年 10 月 14 日㈬	岩手会場(1)	岩手産業文化センター（アピオ）	315 名
令和 2 年 10 月 15 日㈭	岩手会場(2)	岩手産業文化センター（アピオ）	272 名
令和 2 年 10 月 19 日㈪	会津会場(1)	会津アピオ	133 名
令和 2 年 10 月 20 日㈫	会津会場(2)	会津アピオ	131 名
令和 2 年 10 月 22 日㈭	奥州会場(1)	奥州市文化会館（Z ホール）	72 名
令和 2 年 10 月 23 日㈮	奥州会場(2)	奥州市文化会館（Z ホール）	73 名

日　　時	会場名	講習会場	受講者数
令和 2 年 10 月 27 日㈫	岩手会場（3）	岩手産業文化センター（アピオ）	248 名
令和 2 年 10 月 28 日㈬	岩手会場（4）	岩手産業文化センター（アピオ）	256 名
令和 2 年 10 月 30 日㈮	宮古会場	陸中ビル	99 名
令和 2 年 11 月 5 日㈭	仙台会場(1)	フオレスト仙台	74 名
令和 2 年 11 月 6 日㈮	仙台会場(2)	フオレスト仙台	81 名
合　　計			2,752 名

5．おわりに

本除雪講習会の開催にあたり、ご指導とご協力を賜りました東北地方整備局、東北各県の県庁および県警本部、警察署の皆様に感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。

青森会場

弘前会場

岩手会場

奥州会場

宮古会場

秋田会場

横手会場

山形会場

新庄会場

仙台会場

会津会場

新技術活用の促進について
ー 新技術活用の義務化 ー

東北地方整備局　企画部　施工企画課

1．はじめに

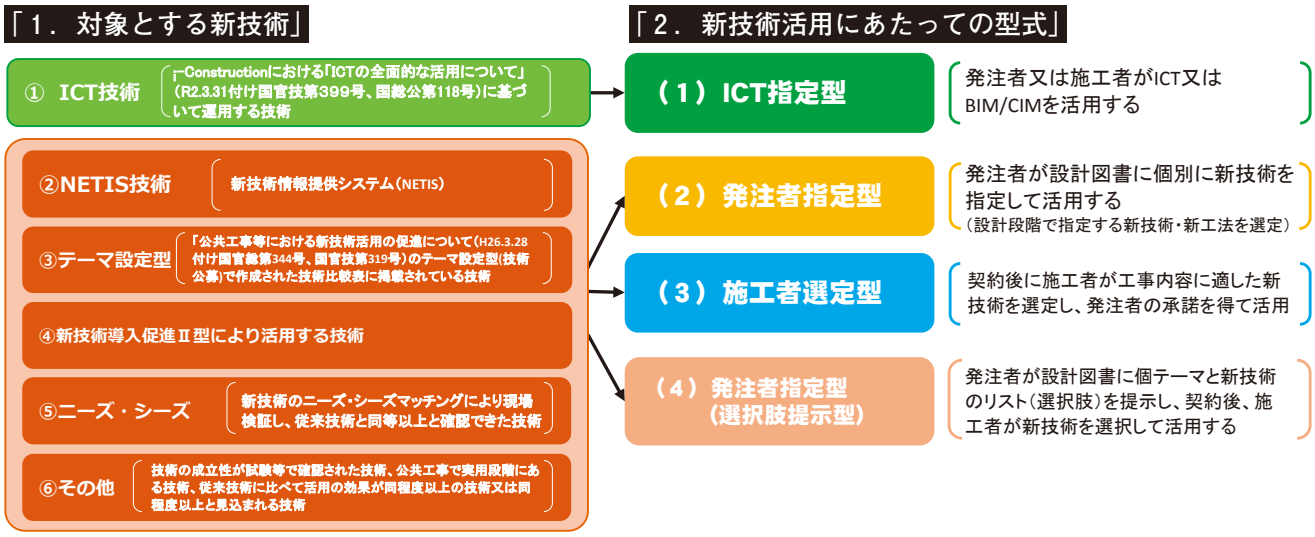
「公共工事における新技術活用システム」（以下「NETIS」）は平成18年度から本格運用が始まり14年を経過しており、公共工事の中でNETIS登録技術活用が浸透してきているものと思われます。

平成２年６月に、東北地方整備局として１工事１技術以上の新技術を活用すること、いわゆる工事における「新技術活用の原則義務化」に取り組むこととしました。

本報告は新技術活用の義務化にあたり、その考え方を示すものです。

2．新技術の義務化

東北地整で対象とする新技術、活用の型式は図-１のとおりです。



図－１　新技術義務化の概略図

「1．対象とする新技術」の解説

「①　ICT技術」についても最新の技術であることから新技術の対象とすることとした。

「②　NETIS技術」はNETIS登録技術約3000技術が対象

「③　テーマ設定型掲載技術」はNETISホームページに掲載
https://www.netis.mlit.go.jp/internalnetis/pubtheme/themesettings

「④　新技術導入促進Ⅱ型」とは、発注者が指定するテーマについて、実用段階に達していない技術又は研究開発段階にある技術を活用し検証された技術

「⑤　ニーズ・シーズマッチング技術」はNETISホームページに掲載
https://www.netis.mlit.go.jp/internalnetis/pubmatch/pubmatch

「2．新技術活用にあたっての型式」の解説

活用にあたっては(1)、(2)、(3)のいずれかを優先に新技術を活用し、工事の内容により受注者がいずれについても選定が困難な場合には④による活用を行うものとする。

これは新技術を義務化する上で、「(3)施工者選定型」での実施に際し、今まで新技術の活用していなかった受注者は選定にあたり多くの労力を費やすなどの過度な負担にならなよう、配慮したものである。

なお、「(4)発注者指定型（選択肢提示型）」のテーマと新技術リスト（選択肢）は表ー1のとおりである。

表ー1　テーマと新技術リスト

テーマ　：　施工管理における写真管理の生産性向上に資する技術

技術名	NETIS登録記号
SnapChamber 電子小黒板アプリ (スマートデバイス用)	KT-160005-VE
Cyzen	KT-170025-A
スマートデバイス用 デジタル野帳アプリ	KT-180030-A
&ANDPAD	KT-180049-A
蔵衛門Pad	KTK-160024-VE
工事写真 黒板自動解析システム	HR-190001-A
土木標準積算データを利用した施工管理システム [デキスパート]	KK-110050-VE
Booth 工事写真アプリ	KK-130056-VE

※なお、このテーマに合致していれば他の技術を採用してもよいこととしてる。
また、R2.12.1現在はこのテーマのみの設定であるが、今後、追加していく予定である。

3．東北地整における新技術の活用状況

⑴新技術活用の概要

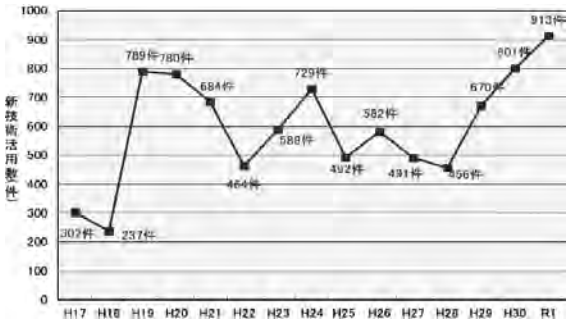
①令和元年度に新技術が活用された工事は、913工事でした。（図－２参照）

H30年度より1.14倍に向上

発注工事件数に対する活用工事件数は約50%

Ｒ１新技術活用工事数　H30新技術活用工事数

913工事　／　801工事　=1.14倍



図－２　活用工事件数の推移

②活用新技術数は、延べ3,098技術であり、積極的に新技術が活用されていました。（H30年度より1.26倍に向上）

Ｒ１新技術活用数　H30新技術活用数

3,098技術　／　2,455技術　=1.26倍

③新技術の活用方法は、施工者希望型が88.9%と大半を占めていました。

（H30年度と同程度）

⑵活用技術ＴＯＰ20

令和元年度の新技術活用件数ＴＯＰ20は表－２のとおりです。

HPへはこちらから

表－２　令和元年度　新技術活用ＴＯＰ20技術

順位	R１活用技術数	NETIS登録番号	技術名	副題	区分	工種	有用な技術
1	165	CB-100037-VE	軽トラック積載対応型屋外可搬式トイレユニット	車載トイレ	製品	仮設工	
2	68	KT-090046-VE	法面２号ユニバーサルユニット自在階段	ユニット型昇降設備	製品	仮設工	［H24推奨］［設計比較］
3	61	KT-140091-VE	インテリジェントマシンコントロール油圧ショベル	機体制御とICTの技術を活用したセミオート制御機能搭載油圧ショベル	機械	土工	［H28活用促進］
4	51	KK-110050-VE	土木標準積算データを利用した施工管理システム［デキスパート］	工程管理、施工計画書、安全管理、CO２排出量管理、出来形管理・写真の電子納品等の施工管理業務支援	システム	CALS関連技術	
5	49	QS-190006-A	VR事故体験・安全教育「ルッカ」	VR技術を活用した工事現場事故体験システム	システム	その他	
6	46	KT-140022-VE	地上型３次元レーザースキャナによる形状計測	地上型３次元レーザースキャナによる地形・空間・構造物等の形状を効率的に計測するシステム	システム	調査試験	［H29活用促進］
7	42	HK-100017-VE	間伐材を利用した木製掲示板(製造時と植林システムによるCO２削減)	製造時のCO２排出量の少ない木製品や間伐材使用製品の利用と植林システムによるCO２削減、循環型社会の構築	製品	仮設工	
8	41	KT-180110-A	快適オールインワンレストルーム	手洗室ユニットを増設した仮設トイレ	製品	仮設工	
9	39	KT-130107-VE	小型車載トイレ「のせるくん」	軽トラックに積載できる小型車載トイレ	製品	仮設工	
9	39	KT-110057-VE	フィールドビューモニター	建設車両の後方270度方向パノラマ映像によるモニターシステム	製品	道路維持修繕工	
11	38	TH-090017-VE	ニューネオソーラーⅡ	ニッケル水素電池を使用した太陽電池式・同期システム機能付き道路工事用保安灯	製品	付属施設	
12	37	KK-150058-VE	３次元点群処理ソフト（TREND-POINT）を用いた施工土量計測システム	３次元計測により生成された点群データのスムーズな解析処理により、施工前後および各施工段階での土量の差分を計算するシステム	システム	土工	［H29活用促進］

順位	R１ 活用 技術数	NETIS登録番号	技術名	副題	区分	工種	有用な技術
13	34	KT-170034-VE	３Dテクノロジーを用いた計測及び誘導システム	３次元データの解析、活用技術を用いて各計測装置と連動し現場の効率化を図るシステム	システム	土工	
14	32	KK-100077-VE	EX-TREND武蔵建設CAD	本技術は、切土・盛土などの数量を自動で取得でき、集計表や塗り潰しなども簡単に行うことができるため作業効率の向上が期待できる	システム	CALS 関連技術	
15	31	HK-100045-VE	グレードコントロールシステム	建設機械に取り付けたセンサからの情報を組み合わ　せ、２D/３Dの設計データを参照しながら建設機械のコントロールやガイダンスを行い、敷均し工・法面整形工・舗装工等を行う	システム	共通工	［H29活用促進］
15	31	KK-100065-VE	AIS機能付バックホウ	オートアイドルストップ機能搭載油圧ショベル	機械	土工	
17	30	KK-120032-VE	３次元設計データ作成システム	CADあるいはLandxmlデータからの３次元設計データ作成及び３次元観測データを活用した出来形横断図・展開図自動作成による業務効率化支援	システム	土工	
17	30	QS-090037-VE	カクイオイルキャッチャー	天然繊維主体の高性能油吸着材	製品	河川維持	
19	29	CG-110011-VE	後方監視カメラ搭載油圧ショベル	運転席右前方のモニタ画面で後方の安全確認ができ、ヘッドガード一体型キャブを搭載した油圧ショベル	機械	土工	
20	28	KT-160019-VE	黒球式熱中症指数計「熱中アラーム」TT-562(ST)	携帯可能な黒球式熱中症指数計で、暑さ指数WBGTをリアルタイム自動測定し、熱中症危険度をアラーム音と数値で知らせる製品	製品	共通工	

※有用な技術とは：

優れた新技術の活用促進を図るため、有識者会議（国土交通本省が主催する新技術活用システム検討会議、各整備局が主催する新技術活用評価会議）が選定する技術のこと

・最も活用件数が多かった技術は、「軽トラック積載対応型屋外可搬式トイレユニット」であった。（H30年度も１位）
・ＩＣＴ活用工事関連技術（ＩＣＴ土工）に関する技術も継続的に活用されている。
（ＴＯＰ20の技術のうち　H30年度：３技術、Ｒ１年度：３技術）

工事の目的物に影響のない仮設備技術の採用が多く、初めて新技術の採用を検討する際は、そういった分野から新技術の導入に取り組んでもらうことでも良いかと考えています。

４．おわりに

国土交通省では公共工事のコスト縮減や品質向上、さらには生産性の向上を図るため、新技術の活用を促進しています。

現在、ＮＥＴＩＳには約3,000技術の登録があり、それらの中から有用な技術を活用し、また、ＩＣＴ施工についても多くの現場で活用され、それらの新技術がいつしかは「新」が取れ一般的な技術として普及されることを期待しています。

今後は建設現場のデジタル・トランスフォーメーションの活用も広がり、ＩＣＴ、ＩｏＴやリモート技術を使った遠隔臨場など、新技術のカテゴリーも拡大していくものと考えられます。

今まで新技術を使用したことのない企業におかれましても、まずは新技術に飛び込んでもらい、生産性の向上に役立てていただければと考えています。

令和２年度　第２回運営委員会開催

令和２年度　第２回運営委員会は、令和２年12月14日㈪仙台市宮城野区の仙台ガーデンパレスで開催しました。出席者は高橋　弘東北支部長を含め23名でした。

コロナウイルスの感染予防の関係から、座席の間隔を開けて椅子をセットし、マスク着用と手指の消毒を徹底して行いました。

審議議題は①１号議案　令和２年度　上半期事業報告について、②２号議案　令和２年度　上半期事業決算状況についての２件と情報提供として「東北地方整備局局長および事務所長　優良工事表彰」（Ｐ16参照）の関係資料について説明がありました。

情報化施工技術委員会　活動報告

ＩＣＴ活用工事の本格導入へ向けて

東北支部　情報化施工技術委員会　委員長　鈴木　勇治
（サイテックジャパン㈱　ＩＣＴ推進企画室　室長）

情報化施工技術委員会は令和３年度に８年目を迎え、情報化施工やＩＣＴ活用に関して東北管内で広く啓蒙活動と人材育成に尽力してきました。令和２年度の活動では、講習会に合わせて相談ブースを設けて、ＩＣＴ活用に関するアドバイスを送るという催しを実施した際に、「ＩＣＴ施工を本格的に取り組むことを目的として内製化するにはどうしたらよいか？　何から始めれば良いか？　何を用意すれば良いか？」といった相談を受けました。この質問に対する回答を中心として、ＩＣＴ活用の本格導入や内製化を目指すひとつの手段としての考えを以下に述べさせていただきます。

◎先ずは専門業者への外部委託から

必要機材を揃えて知識を得れば、専門チームや担当者を決めて内部作業を開始できますが、従来の経験や知識で対応できる技術ではないので、初期段階では作業ごとに専門企業に委託して、委託先と共に作業を進めながら経験と知識を得る。そして、無理なく進められる段階から内製化を確立することが、ひとつの手段であると考えます。

◎例えばドローンの写真測量

従来の工事測量では、“デジタル”写真測量は特に必要とされなかったので、その仕組みや計測精度を確保する手法などが理解されていないことと、上空で不安定な状態にあるドローンからの撮影という状況があるの

で、ＩＣＴ活用工事の３次元計測技術の中でも、特に経験が必要とされる技術であると考えられます。計測結果の精度は、検証点では精度を満足していても、他の計測点で精度が得られているかは、計測データのみでは確認が困難なので、地形に応じた計測方法の知識が必要になります。

◎例えばＩＣＴ建機施工

「ＩＣＴ建機を購入すべきか？　レンタルで対応すべきか？」という事を情報化施工の時代から問われてきて、以前は、「購入した方が必要に迫られて取り組むので、購入すべき」と考えていましたが、今の答えとしては「まずはレンタルで対応してください。それも、いろいろな機種を試してください」という事をお勧めしています。建機施工において、施工効率を上げると共に施工品質を確保するという事は、建機のオペレータの腕に頼る事になるので、建機オペレータが使いやすいシステムを選定することが重要かと考えます。また､「熟練オペレータがＩＣＴを使いこなせるか？」という意見を聞くこともありますが、ＩＣＴ建機は「半日程度で理解できる、３日使ったらやめられない、５日使ったら最適な施工方法を見つける。腕が立つ人ほど使いこなす」ことが、これまでの経験で見えてきました。

◎何を用意すれば良いか

外部企業との連携から始めることを前提にして､「まず始めに何を用意するのか？」との問いに対する回答は､「各種ソフトウェアと高機能ＰＣ、多くの機能を備えたＴＳを用意してください」と回答します。

各種ソフトウェアとは、写真解析、点群処理、成果データ作成用ソフトウェアと、３次元設計データ作成ソフトウェアを指します。委託先の作業進捗を確認すると共に、データに問題がないかを確認するには、ソフトウェアにより確認することが必要不可欠となります。また、データを円滑に動作させるためには高機能ＰＣを用いることが重要です。そして、作成したデータの精度に問題ないかを確認するひとつの手段として、データをＴＳに搭載して現地で計測しながら確認できる場合があるので、データを搭載できるＴＳを用意することが望ましいと考えます。また、３次元設計データを、自主管理や丁張設置、構造物設置、作業進捗の確認など多くの場面で効果的に利用することが出来るので、多くの機能を搭載するＴＳを導入することが勧められます。

◎何から始めれば良いか

内製化を進めるには担当技術者を決定して育成することと、内製化までの期間を確実に進めるために相談できる味方を外部に作ることが重要かと考えます。

担当技術者は、施工管理の経験を有して、ＰＣを含むＩＣＴなどに抵抗を感じない技術者で、いわゆる“仕事ができる”職員を選定して、多くの研修に参加させることが企業を伸ばすものと考えます。若い世代から始めた場合は会社に対して発言が出来ない、管理職など年上の世代から始めた場合は下の世代に威圧感を与えてしまうという事が考えられます。

外部の相談できる味方は、建機、測器、ソフトウェア企業や、測量設計業など現場に関係する企業の担当者を想定していて、ソフトウェア企業からは、３次元設計データの活用方法などのアドバイスが期待でき、建機、測器関連企業からはＩＣＴ建機の効率的な運用方法などのアドバイスが期待できます。

ＩＣＴの本格導入に向けた体制を構築することを主として、受注者側について述べさせて頂きましたが、受注企業側からは、発注側が充実することを望んでいる声も少なくありません。とくに地方公共団体の発注では、ＩＣＴ活用への理解が薄く、“ＩＣＴを活用しにくい”といった意見を頂くこともあります。地方公共団体の発注には、それに見合った運用方法で進めることが必要だと思いますので、整備局や業団体と連携して地方公共団体に適したオリジナルな活用方法の構築を進めて頂ければ、と考えます。

令和２年度　建設機械施工技術検定試験
１級学科試験実施

令和２年度建設機械施工技術検定試験学科試験は、令和２年６月21日㈰に実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染の恐れから延期されました。延期された学科試験のうち、１級の学科試験は令和２年10月11日㈰に実施され、２級学科試験は令和３年１月17日㈰に実施予定となりました。

東北地区の１級学科試験は、令和２年10月11日㈰に岩手県滝沢市の岩手産業文化センター（アピオ）で実施され254名の方々が受験されました。受験会場風景は下の写真のとおりです。

試験会場看板

コロナ感染予防対策用体温自動計測装置

試験会場風景(1)

試験会場風景(2)

令和2年度　防災訓練を実施

技術部会

1．概要

例年９月１日は「防災の日」で、日本の防災記念日になっております。昭和35年に「防災の日」が制定されてからは、全国各地で防災訓練が行われております。

令和２年度は東北地方としては記憶に残るような大災害はありませんでした。しかし令和２年９月１日の防災訓練は大雨予想のため延期となりました。

(一社)日本建設機械施工協会東北支部では、平成24年６月１日付けで、東北地方整備局と「災害時における東北地方整備局所管施設（機械設備および災害対策用機械）の災害応急対策業務に関する協定」を締結しております。令和２年度は令和２年８月６日付け国東整防災第16号で、東北地方整備局統括防災官から「令和２年度総合防災訓練への協力について（依頼)」を受け、当支部はそれに協力して防災訓練の準備にかかりました。しかし、前述のように大雨予想のため延期となりました。

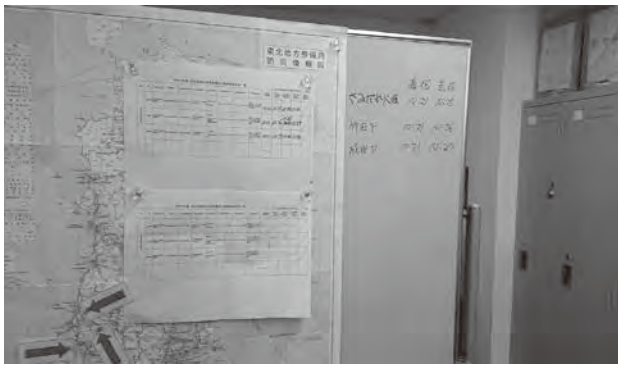
９月に入り再び東北地方整備局統括防災官から防災訓練の協力依頼があり、９月28日に防災訓練を実施することになりました。

令和２年９月28日㈮９時40分「山形県沖で震度６強の地震が発生」したという想定で、訓練を実施することになりました。支部では要請を受けてすぐ会議室に「(一社)日本建設機械施工協会東北支部防災訓練本部」を設置し、技術部会新田哲雄副委員長ほか６名と事務局４名が参加し、情報伝達の訓練を実施しました。

防災訓練状況(1)

防災訓練状況(2)

防災訓練状況(3)



連絡状況掲示板

2．訓練の実施

今回の訓練では支部会員のうち、東北地方整備局との災害協定に賛同して協定に加入している73社のうち３社にご協力をいただき、酒田河川国道事務所酒田出張所、赤川出張所が管理する機械設備について訓練を実施しました。

訓練はFAXによる応援要請、要請に対する応援対応、結果報告などの情報伝達の訓練で、防災訓練の対象とした設備及び訓練に協力した会社等の結果は下表のとおりです。

	要請事務所	応援対象設備等	応援要請会社	事務所からの依頼着信時刻	支部からの要請発信時刻	担当会社現地へ出発時刻	現地点検完了報告受信時刻
東北支部独自訓練	酒田河川国道事務所	さみだれ大堰	㈱ＩＨＩインフラ建設東北支店	10：21	10：25	10：58	11：31
		竹田排水機場	㈱荏原製作所東北支社	10：21	10：26	10：35	11：57
		成田排水機場	㈱酉島製作所仙台支店	10：21	10：27	10：46	11：28

※さみだれ大堰　竹田排水機場　　酒田出張所管内
成田排水機場　　赤川出張所管内

3．訓練結果

東北地方整備局からの総合防災訓練への協力依頼を受けて、当支部が行う情報伝達訓練は、中止となった平成28年度を除き、本年度で15回目となりました。

今回の訓練では「応援要請」に対して、できるだけ実際の災害を想定した「応援対応」をしていただくことを協力会社に要望し、訓練を実施しました。訓練の結果としては、上表のとおり各社とも迅速に対応して頂き、良好な訓練ができました。

最後に今回の訓練にご協力いただいた東北地方整備局、会員各社の皆様に心から御礼申しあげます。

安全コーナー

「安全の見える化」について

建設部会　田中　秀幸
（西松建設㈱北日本支社）

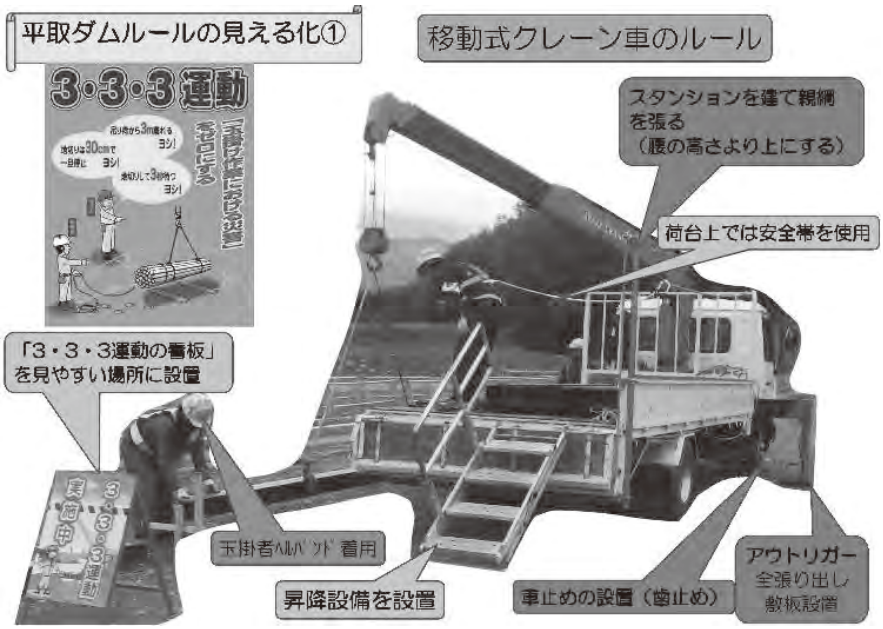
1．はじめに

ここ何年か前から「安全の見える化」と言う言葉を聞くようになりました。「安全の見える化」とは日頃取り組んでいる安全活動や職場にひそむ危険などを目に見える形にして効果的に災害防止を推進する取組です。「見える化」することにより、労働者の安全意識が高まり、安全活動の活性化の効果が期待できます。「見える」安全活動とは　職場における危険性、有害性の中には、通常視覚的に捉えられないものがあります。それらを可視化（見える化）すること、また、それを活用することによる効果的な安全活動を「見える」安全活動といいます。今回は当社で実際に現場で行っている見える化活動（個人評価ですが）好事例について紹介します。

2．「見える化」活動事例

2－1）クレーン作業の見える化

建設現場で欠かせない、小型移動式クレーン車のルール見える化です。



・3・3・3運動の励行。吊荷から3m離れる、地切30cmで一旦停止、地切り後3秒待ち、荷崩れが無いか確認する。意外と3つの3の意味が分かっていない人が多いのです。

・小型移動式クレーンの荷台では、スタンション、親綱を設置して、安全帯を使用する。最近は建設現場に出入りする運送業者も多く設置しています。

・昇降は専用の昇降階段を設置する。既製品で販売されています、便利な世の中になりました。

2－2）服装、保護具の見える化

現場作業で最も基本的な服装、保護具のルールです。

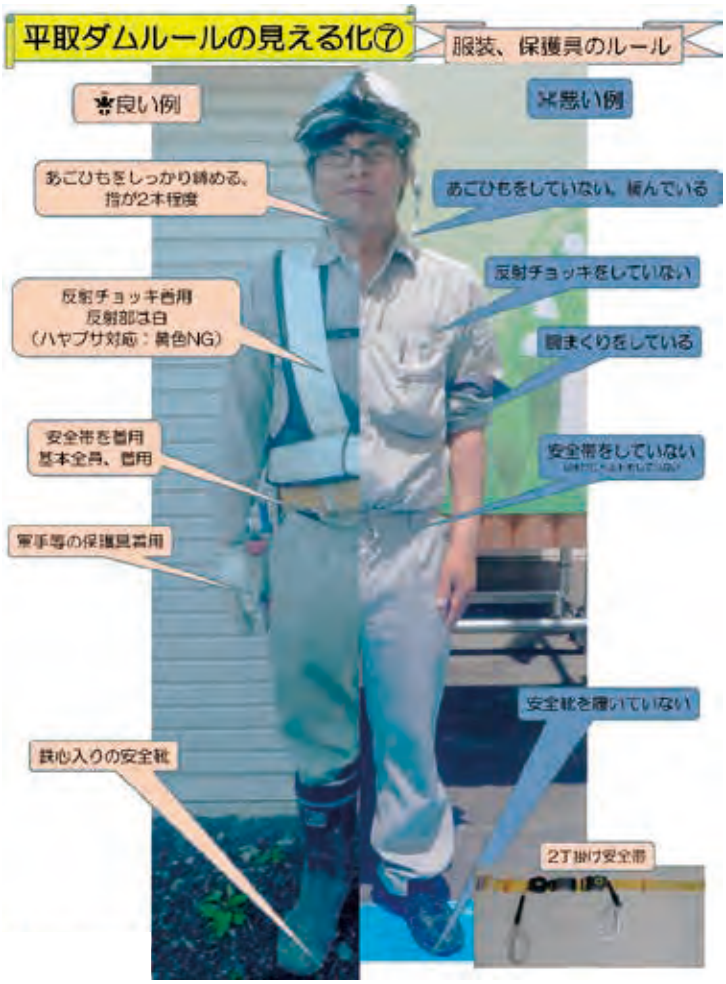
・当たり前のことですが、できていない作業員の方を見かけます。

　あごひもをしてない人、トラチョッキを着用していない人、スニーカーで作業している人など。

　現場の安全掲示板にこのような掲示があるとつい目が行くと思います。隣に鏡を置いて自分の服装を確認するのも良い方法と思います。

　今回の事例は明かり現場ですが、トンネルでは防塵マスク、耳栓、プロテクターなどにしてみてはいかがでしょうか？

　写真を合成して作成していますが、非常に工夫されている事例です。



3．おわりに

「見える化」というのは、大手自動車メーカーであるトヨタの生産現場から生まれた言葉だそうです。

近年では見える化は安全だけではなく、国の「働き方改革」の対応策の施行が、建設業界においても昨今優先的に進められ、「週休二日実現行動計画」、国土交通省のICTソリューションによる改善計画「i-Construction」を筆頭に、労働環境の改善が急務となっていいます。その対策として長時間労働問題、業務のムダを削減、業務の効率化、生産性向上のために労働時間データ、施工、出来形管理（ＢＩＭ、ＣＩＭ）の見える化など多くの手法が実施されています。

今回の好事例が参考になれば幸いです。まずは目的を明確にして現場で見える化活動の実践をお願いします。

本年もご安全に！

令和２年度
東北地方整備局 局長及び事務所長 優良工事表彰

東北地方整備局では建設週間期間中の令和２元年７月31日に管内の優良工事等について発表しました。優良工事は局長表彰が70工事、事務所長表彰が122工事、優良業務（コンサル等）は局長表彰が51業務、事務所長表彰が132業務、下請企業事務所長表彰が59社でした。

東北支部会員で表彰を受けた会社は下表の通りです。おめでとうございました。

令和２年度　優良工事　局長表彰　支部会員一覧表

（50音順）

会　社　名	所管事務所	工　事　名	表彰工種区分
置賜建設㈱	山形河川国道	最上川上流米沢地区河川維持工事	河川維持工事
置賜建設㈱	磐城国道	羽黒平道路改良工事	道路改良工事
㈱柿崎工務所	山形河川国道	赤石地区舗装工事	ｱｽﾌｧﾙﾄ新設工事
國井建設㈱	山形河川国道	寒河江国道館内構造物補修工事	道路維持工事
㈱佐藤工務店	北上川下流	鳴瀬川鹿島台下流維持工事	河川維持工事
ショーボンド建設㈱南東北支店	仙台河川国道	唐桑トンネル補修工事	道路維持工事
升川建設㈱	新庄河川	赤川流域上大針ほか砂防堰堤改良工事	砂防ダム工事
万六建設㈱	秋田河川国道	角館国道維持補修工事	道路維持工事
㈱三村興業社	青森河川国道	十和田国道維持補修工事	道路維持工事
山和建設㈱	山形河川国道	梨郷竹原地区道路改良工事	道路改良工事

令和２年度　優良工事　事務所長表彰　支部会員一覧表

（50音順）

会　社　名	所管事務所	工　事　名	表彰工種区分
㈱ＩＨＩインフラ建設東北支店	岩手河川国道	梁川新橋上部工工事	ＰＣ橋工事
㈱ＩＨＩインフラ建設東北支店	三陸国道	高田地区上部工工事	ＰＣ橋工事
㈱ＩＨＩインフラ建設東北支店	郡山国道	大善寺橋外耐震補強補修工事	道路維持工事
㈱英明工務店	秋田河川国道	雄物大橋橋梁補修工事	道路維持工事
小国開発㈱	山形河川国道	新幸来橋ＡＩ橋台工事	道路構造物工事
開成建設㈱	北上ダム統管	御所ダム貯水池左岸法面対策工事	法面工事
㈱柿崎工務所	仙台河川国道	東八幡前北地区道路改良工事	道路改良工事
上北建設㈱	青森河川国道	七戸後平地区道路改良工事	道路改良工事
國井建設㈱	新庄河川	寒河江川流域東ノ沢ほか砂防堰堤改良工事	砂防ダム工事
㈱後藤組	山形河川国道	米沢国道東地区維持補修工事	道路維持工事
ショーボンド建設㈱北東北支店	岩手河川国道	水沢管内橋梁補修工事	道路維持工事
㈱高嶋組	成瀬ダム	成瀬ダム林道付替工事用道路工事	道路改良工事
㈱塚本商会	能代河川国道	能代国道維持補修工事	道路維持工事
日建工業㈱	仙台河川国道	名取川閖上地区河川防災ステーション工事	河川工事
日本ロード･メンテナンス㈱仙台営業所	仙台河川国道	仙台西国道路面清掃工事	道路維持工事
升川建設㈱	山形河川国道	村山地区道路改良工事	道路改良工事
㈱松田組	山形河川国道	最上川上流糠野目地区築堤工事	河川工事

令和２年度　優良業務　事務所長表彰　支部会員一覧表

（50音順）

会　社　名	所管事務所	業　務　名	業務区分
㈱ダイワ技術サービス	北上川下流	鳴瀬川水系河川測量	測　　量

令和２年度　下請企業事務所長表彰　支部会員一覧表

（50音順）

会　社　名	所管事務所	業　務　名	業務区分
ショーボンド建設㈱南東北支店	山形河川国道	小国小坂地区橋梁補修補強工事	道路維持工事
ＹＣＧ福島	福島河川国道	浅川地区道路改良工事	道路改良工事

支部行事

企画部会

■企画部会
月　　日：令和２年12月７日㈪
場　　所：東北支部　事務局会議室
出 席 者：木村信悦企画部会長ほか５名
議　　題：第２回支部運営委員会について
①令和２年度上半期事業報告について
②令和２年度上半期事業決算状況について
③情報提供

■第２回運営委員会開催
月　　日：令和２年12月14日㈪
場　　所：仙台ガーデンパレス
出 席 者：高橋　弘東北支部長ほか22名
内　　容：①第１号議案　令和２年度　上半期事業報告について
②第２号議案　令和２年度　上半期事業決算状況について
③情報提供 「局長および事務所長優良工事表彰」について

広報部会

■第２回広報部会（メールによる意見交換）
月　　日：令和２年９月９日㈬
内　　容：①支部たより180号発行計画について
②編集計画について
③原稿執筆依頼について
④原稿〆切は令和２年12月11日㈮
⑤原稿執筆依頼依頼文書発送　令和２年９月11日㈮

■第１回　ＥＥ東北'21　実行委員会作業部会
月　　日：令和２年11月４日㈫
場　　所：仙台市　ハーネル仙台
出 席 者：伊藤圭東北地方整備局東北技術事務所副所長ほか18名
内　　容：①EE東北2020　決算・監査報告
②ＥＥ東北'21　組織（案）
③ＥＥ東北'21　実施方針（案）
④ＥＥ東北'21　予算（案）

■第１回　ＥＥ東北'21　実行委員会
月　　日：令和２年11月９日㈪
場　　所：東北地方整備局　会議室
出 席 者：角湯克典東北地方整備局　企画部長ほか29名
内　　容：①ＥＥ東北2020　決算・監査報告
②ＥＥ東北'21　組織（案）
③ＥＥ東北'21　実施方針（案）
④ＥＥ東北'21　予算（案）

技術部会

■第１回技術部会
月　　日：令和２年９月１日㈫
場　　所：支部会議室
出 席 者：小野由則技術部会長ほか12名
内　　容：①東北地方整備局主催「総合防災訓練」への参画の仕方について
②現場研修会の計画について

■令和２年度　総合防災訓練
月　　日：令和２年９月28日㈪
場　　所：支部会議室
出 席 者：新田哲雄技術部会副部会長ほか10名
内　　容：東北地方整備局主催「令和２年度総合防災訓練」の情報伝達訓練に参加

■令和２年度　建設機械関係意見交換会
月　　日：令和２年12月22日㈫
場　　所：東北地方整備局　会議室
出 席 者：東北地方整備局 角湯克典企画部長ほか16名
内　　容：①建設機械の動向について
②除雪機械の自動化技術について
③除雪オペレータの育成について
④その他

施工部会

■令和２年度　除雪講習委員会
月　　日：令和２年７月２日㈭
場　　所：東北地方整備局会議室
出 席 者：東北地方整備局及川輝浩機械施工管理官ほか13名
内　　容：令和２年度除雪講習会実施計画について説明し了承を得た

■除雪講習会挨拶回り
①国土交通省秋田河川国道事務所　湯沢河川国道

事務所　秋田県建設部　秋田警察署　横手警察署
月　　日：令和２元年７月６日㈪
担 当 者：山田仁一　井上秀秋

②国土交通省青森河川国道事務所　青森県県土整備部　青森警察署　弘前警察署
月　　日：令和２元年７月９日㈭
担 当 者：山田仁一　木村信悦　栗原典子

③国土交通省山形河川国道事務所　山形県県土整備部　山形警察署　新庄警察署
月　　日：令和２元年７月９日㈭
担 当 者：阿曽貢貴　山尾　昭

④国土交通省岩手河川国道事務所　三陸国道事務所　岩手県県土整備部　盛岡警察署　水沢警察署　宮古警察署
月　　日：令和２元年７月９日㈭～10日㈮
担 当 者：山崎　晃　宮本典明

⑤国土交通省郡山国道事務所　福島県土木部　会津若松警察署
月　　日：令和２元年７月13日㈪
担 当 者：阿曽貢貴　木村信悦

⑥国土交通省仙台河川国道事務所　宮城県土木部　宮城県警本部
月　　日：令和２元年７月17日㈮
担 当 者：阿曽貢貴　山田仁一

■建設機械施工技術検定実地試験の新規試験監督者講習
月　　日：令和２年８月21日㈮
場　　所：東北支部会議室
出 席 者：阿曽貢貴事務局長ほか５名
内　　容：施工技術総合研究所制作ＤＶＤ視聴、実地試験実施要領、出題・採点基準の説明と打合せ

■建設機械施工技術検定実地試験の新規試験監督者講習
月　　日：令和２年８月24日㈪
場　　所：宮城県仙台市　西尾レントオール㈱東北テクノヤード
出 席 者：阿曽貢貴事務局長ほか６名
内　　容：実地試験実施要領、出題・採点基準の説明、模擬採点

■建設機械施工技術検定実地試験の試験監督者事前打合せ
月　　日：令和２年８月25日㈫
場　　所：宮城県仙台市　西尾レントオール㈱東北テクノヤード
出 席 者：阿曽貢貴事務局長ほか17名
内　　容：施工技術総合研究所制作ＤＶＤ視聴、実地試験実施要領、出題・採点基準の説明と打合せ

■建設機械施工技術検定実地試験
月　　日：令和２年８月26㈫～27日㈭
場　　所：宮城県仙台市　西尾レントオール㈱東北テクノヤード

受験者数：

種別	１級	２級	合計
１種	16	24	40
２種	14	127	141
３種	3	7	10
４種	10	10	20
計	43	168	211

■除雪講習会
①令和２年度除雪講習会は令和２年９月23日㈫から11月６日㈮まで22回開催しました　詳細については２ページの「令和２年度除雪講習会の開催」をご覧ください
②釜石地区（特別開催）
月　　日：令和２年12月17日㈭
場　　所：釜石市民交流センター
受 講 者：19 名

情報化施工技術委員会関係

■令和２年度　i-Construction（ＩＣＴ活用工事）セミナー　テキスト説明会
月　　日：令和２年７月７日㈫
場　　所：東北支部　会議室
出 席 者：鈴木勇治　情報化施工技術委員会委員長ほか４名
内　　容：セミナー　テキストについての講師を対象とした説明会

■令和２年度　i-Construction（ＩＣＴ活用工事）セミナー
内　　容：①令和２年度の取り組み　東北地方整備局の取組
②ＩＣＴ活用工事の県の取組み
③ＩＣＴ活用工事の実践
その１　３次元計測の特徴

その２　３次元計測の効果的活用
ＩＣＴ建設機械施工
その３　施工計画の立案
その４　ソフトウェアの有効活用

主　　催：東北地方整備局、青森県・秋田県・岩手県・山形県・宮城県・福島県
東北建設業協会連合会、ＪＣＭＡ東北支部

講　　師：①東北地方整備局　②各県担当者
③ＪＣＭＡ東北支部　情報化施工技術委員会メンバー

①秋田会場
月　　日：令和２元年７月８日㈫
場　　所：秋田市　秋田県ＪＡビル
受 講 者：46名

②青森会場
月　　日：令和２年７月10日㈮
場　　所：青森市　青森県観光物産館アスパム
受 講 者：50名

③仙台会場
月　　日：令和２年７月15日㈫
場　　所：仙台市　フォレスト仙台
受 講 者：47名

④山形会場
月　　日：令和２年７月16日㈭
場　　所：山形市　山形ビッグウイング
受 講 者：47名

⑤岩手会場
月　　日：令和２年７月28日㈫
場　　所：滝沢市　岩手産業文化センターアピオ
受 講 者：43名

⑥福島会場
月　　日：令和２年７月31日㈮
場　　所：福島市　とうほう・みんなの文化センター
受 講 者：44名

■「令和２年度　i-Construction研修」講義運営
月　　日：令和２年８月５日㈫～７日㈮
場　　所：東北地方整備局　多賀城研修所
受 講 者：東北地方整備局職員９名
内　　容：①テキスト作成
②講義（座学、実習）運営
講　　師：情報化施工技術委員会　鈴木勇治委員長ほか11名

■ＩＣＴ、ＵＡＶ（i-Construction）基礎技術講習会（主催：東北土木人材育成協議会）

【座学】
・東北地方整備局におけるi-Constructionの取り組み
・各県・仙台市における取り組み
・３次元測量の概要と留意点（３次元測量の基礎知識、安全対策、事例等）
・ＩＣＴ活用工事の監督・検査の留意事項
・点群ソフト、３D設計データ
・ＩＣＴ建機
・TS、GNSS　３次元計測（検査等現場計測）

【実習】
・ＩＣＴ建機操作実習
・ＴＳ、ＧＮＳＳローバー計測実習

①秋田県会場
〈座学〉
月　　日：令和２年９月２日㈫
場　　所：秋田県自治研修所
受 講 者：60名（申込み）
〈実習〉
月　　日：令和２年９月３日㈭
場　　所：㈱ほくとう横手営業所
受 講 者：50名（申込み）

②山形県会場
〈座学〉
月　　日：令和２年９月16日㈫
場　　所：山形県　村山総合支庁　西村山地域振興局　講堂
受 講 者：40名（申込み）

③仙台市会場
〈座学〉
月　　日：令和２年９月23日㈫
場　　所：仙台市役所　６階　第１会議室
受 講 者：25名（申込み）

④福島県会場
〈座学〉
月　　日：令和２年９月28日㈪
場　　所：福島テルサ　３階　大会議室
受 講 者：42名（申込み）
〈実習〉
月　　日：令和２年９月29日㈫
場　　所：コマツＩｏＴセンタ福島
受 講 者：42名（申込み）

⑤宮城県会場
〈座学〉
月　　日：令和２年９月30日㈫
場　　所：宮城県庁　２階　講堂
受 講 者：50名（申込み）

■地元工業高等学校　特別授業への講師派遣

月　　日：令和２年９月14日㈪
場　　所：学校法人北杜学園　仙台工科専門学校仙台校舎
受 講 生：環境土木工学科　２年生　25名
講　　師：情報化施工技術委員会　鈴木勇治委員長
内　　容：①〈座学〉i-Constructionについて
②〈座学〉これからの土木業界

■ＩＣＴ、ＵＡＶ（i-Construction）基礎技術講習会（主催：東北土木人材育成協議会）

【座学】
・東北地方整備局におけるi-Constructionの取り組み
・各県・仙台市における取り組み
・３次元測量の概要と留意点（３次元測量の基礎知識、安全対策、事例等）
・ＩＣＴ活用工事の監督・検査の留意事項
・点群ソフト、３D設計データ
・ＩＣＴ建機
・ＴＳ、ＧＮＳＳ　３次元計測（検査等現場計測）

【実習】
・ＩＣＴ建機操作実習
・ＴＳ、ＧＮＳＳローバー計測実習

⑤宮城県会場
〈実習〉
月　　日：令和２年10月１日㈭
場　　所：宮城県　コマツＩｏＴセンタ宮城
受 講 者：23名（申込み）

⑥青森県会場
〈座学〉
月　　日：令和２年10月８日㈭
場　　所：青森市　文化観光交流施設ねぶたの家　ワラッセイベントホール
受 講 者：39名（申込み）

⑦岩手県会場
〈座学〉
月　　日：令和２年10月21日㈫
場　　所：岩手県滝沢市　岩手産業文化センター
受 講 者：43名（申込み）
〈実習〉
月　　日：令和２年10月22日㈭
場　　所：岩手県滝沢市　岩手産業文化センター
受 講 者：29名（申込み）

■i-Construction関係　自治体協力（講師派遣）

①「令和２年度　ＩＣＴ施工活用セミナー・個別相談会」における講演依頼
主　　催：青森県
月　　日：令和２年10月13日㈫
場　　所：青森市　ラ・プラス青い森
受 講 者：県内建設会社32社（団体）42名
講演内容：県発注工事のＩＣＴ施工提案
講　　師：情報化施工技術委員会　鈴木勇治委員長、小薬賢一顧問

②「令和２年度　ＩＣＴ施工活用研修」における研修施設紹介
主　　催：青森県
月　　日：令和２年10月15日㈭
場　　所：㈱岩手測器社　ＩＣＴ研修センター（盛岡市）
受 講 者：県内建設会社８社９名

③「ＩＣＴ導入に踏み出す建設業・測量設計業のための講習会」への講師派遣依頼
主　　催：宮城県
月　　日：県北地区：令和２年10月27日㈫、県南地区：令和２年10月28日㈫
場　　所：県北地区：コマツＩｏＴセンタ東北、県南地区：D-techCenterSatellite岩沼
受 講 者：県北地区：県内建設・コンサル会社14名、県南地区：県内建設・コンサル会社13名
講義内容：①ＩＣＴ活用工事の概要と効果
②ＩＣＴ施工の実施事例紹介
講　　師：①情報化施工技術委員会　鈴木勇治委員長
②情報化施工技術委員会　石井明浩委員

■令和２年度　建設ＩＣＴ施工講習会

主　　催：青森県、(一社)青森県建設業協会
共　　催：(一社)日本建設機械施工協会　東北支部
月　　日：令和２年11月９㈪～11㈫・19日㈭～20日㈮
場　　所：青森市内
受 講 者：９名
内　　容：１日目　座学　ＩＣＴ活用工事の基礎、３次元計測等
２日目　実習　起工測量（ＵＡＶ、TLS）／座学　３次元計測、ＩＣＴ建機施工等
３日目　実習　３次元設計データ作

成、出来形管理等／座学　３次元設計データ作成、出来形管理等
４日目　実習　ＩＣＴ建機施工（ＢＨ)、出来形管理、検査（ＴＳ、ＧＮＳＳ）
５日目　座学　ＩＣＴ活用工事一般、応用、研修のまとめ

■ＩＣＴ活用工事監督・検査講習会
内　　容：①座学-１　ＩＣＴ施工の監督検査
②座学-２　ＩＣＴ活用工事の要点
③実習　測器実習　ＴＳ、ＧＮＳＳローバー
主　　催：東北地方整備局
講　　師：①東北地方整備局
②・③ＪＣＭＡ東北支部　情報化施工技術委員会メンバー

①山形会場
月　　日：令和２年11月24日㈫
場　　所：山形河川国道事務所　会議室、山形除雪ＳＴ構内
受 講 者：７名

②宮城会場
月　　日：令和２年11月27日㈮
場　　所：東北技術事務所　会議室、構内
受 講 者：10名

③秋田会場
月　　日：令和２年12月２日㈬
場　　所：秋田河川国道事務所　会議室、秋田除雪ＳＴ構内
受 講 者：17名

④青森会場
月　　日：令和２年12月３日㈭
場　　所：青森河川国道事務所　会議室、構内
受 講 者：10名

⑤岩手会場
月　　日：令和２年12月７日㈪
場　　所：岩手河川国道事務所　会議室、滝沢防災ＳＴ構内
受 講 者：21名

⑥福島会場
月　　日：令和２年12月９日㈬
場　　所：福島河川国道事務所　会議室、構内
受 講 者：20名

■東北支部　情報化施工技術委員会　第６回　幹事会
月　　日：令和２年11月30日㈪
場　　所：東北支部　事務局会議室
出 席 者：鈴木勇治　情報化施工技術委員会委員長ほか12名
議　　題：①令和２年度活動報告
②令和３年度活動方針
③ＥＥ東北'21について
④高校等出前授業への対応方針
⑤講師認定資格の扱いについて
⑥委員会の開催計画について

会員消息

代表者変更

○㈱エス・ケイ・ディ仙台支店
取締役支店長　柴田　則夫
（旧　常務取締役支店長　佐藤　邦勝）

新規入会

○㈱小野工業所
代表取締役社長　小野　雅亮（おのまさあき）
〒960-2261　福島県福島市町庭坂堀ノ内３－１
TEL 024－591－1001　FAX 024－591－1842

○リーグルジャパン㈱
指定代表者　シニアプロダクトマネージャー
橋本　靖彦
〒164-0013　東京都中野区弥生町５－11－29
フジビル２F
TEL 03－3382－7340　FAX 03－3382－5843

支部たより　180号
令和3年1月25日発行
発　　行　（一社）日本建設機械施工協会東北支部
〒980-0014 仙台市青葉区本町3－4－18　太陽生命仙台本町ビル5F
ＴＥＬ　022－222－3915　ＦＡＸ　022－222－3583
ホームページアドレス　http://www.jcmanet.or.jp/tohoku/
メールアドレス　jcma-futukamati@mbr.nifty.com

謹賀　新年

本年も宜しくお願い申しあげます

令和3年 元旦

（一社）日本建設機械施工協会東北支部

支部長　高橋　　弘

副支部長	勝治　博	施工部会長	坪井　正博
副支部長	石黒　忠史	建設部会長	河本　高広
企画部会長	木村　信悦	情報化施工技術委員会　委員長	鈴木　勇治
広報部会長	浅野　公隆	事務局長	阿曽　貢貴
技術部会長	小野　由則		

編集後記

「新年明けましておめでとうございます」

と、つい大声を出すと、マスクを着用、大声は控えて、換気を、と車内アナウンスが聞こえてきそうです。昨年の1月以降、感染拡大が続いており歯止めの兆しが見えません。今まで当たり前に行動してたことが出来ない、新しい生活スタイルにも慣れてきましたが、しばらくは辛抱となりそうです。

この間の支部の運営も感染対策を講じ参加者を縮小して取組んできました。ご協力有難うございます。

今年3月で東日本大震災発災から丸10年を迎えることになります。もう10年たったのか、と感じるところですが、皆さんのお思いは如何でしょうか。3月で復興期間は終了となるようです。昨年南三陸町を訪れたときに南三陸復興記念公園は立派に出来上がっておりましたが、近隣では河川整備や掘削工事が盛んに行われていた。県市町村においては未だ完成に至らない箇所も有ろうかと思います。地元の皆様にはもう少し期間が待たれると思いました。

今年中に三陸沿岸道路の八戸仙台間が全線開通となる予定です。気仙沼、陸前高田、宮古そして八戸と近くなります。移動が盛んになり八戸方面の海鮮丼、スルメイカを頂きたいと思います。

「支部たより180号」を無事発行できました。原稿執筆してくださった方々に厚く御礼申し上げます。本年もJCMA東北支部の事業の推進に向けて会員の皆様のご支援宜しくお願いします。

（広報部会　新田　哲雄　藤木鉄工㈱）